

- ① スバルらしさを追求した商品の拡充
- ② 自動車事業の開発リソース増強
- ③ ブランドの更なる向上・浸透
- ④ 生産能力の増強
- ⑤ 質の高い企業を目指す取り組み

対処すべき課題

① スバルらしさを追求した商品の拡充



平成28年
(2016年)

平成29年
(2017年)

平成30年
(2018年)

平成31年
(2019年)

平成32年～
(2020年～)



次世代プラットフォーム (スバルグローバルプラットフォーム)
新型インプレッサを皮切りに平成28(2016)年度以降の主力車種の
新型モデル全車に順次投入

モデル
計画



新型インプレッサ

フルモデルチェンジ

フルモデルチェンジ

フルモデルチェンジ

フルモデルチェンジ

主力車種の新型モデルを間断無く投入

北米 多人数SUV

対処すべき課題

① スバルらしさを追求した商品の拡充



スバルは「アイサイト」で実証された
安全性能と信頼性をさらに進化させ、自動運転を実現する

来年 平成29(2017)年



平成32(2020)年



① スバルらしさを追求した商品の拡充



平成28年
(2016年)

平成29年
(2017年)

平成30年
(2018年)

平成31年
(2019年)

平成32年～
(2020年～)



直噴ユニットの拡大展開

新設計ダウンサイジングターボ

環境
対応

プラグインハイブリッド

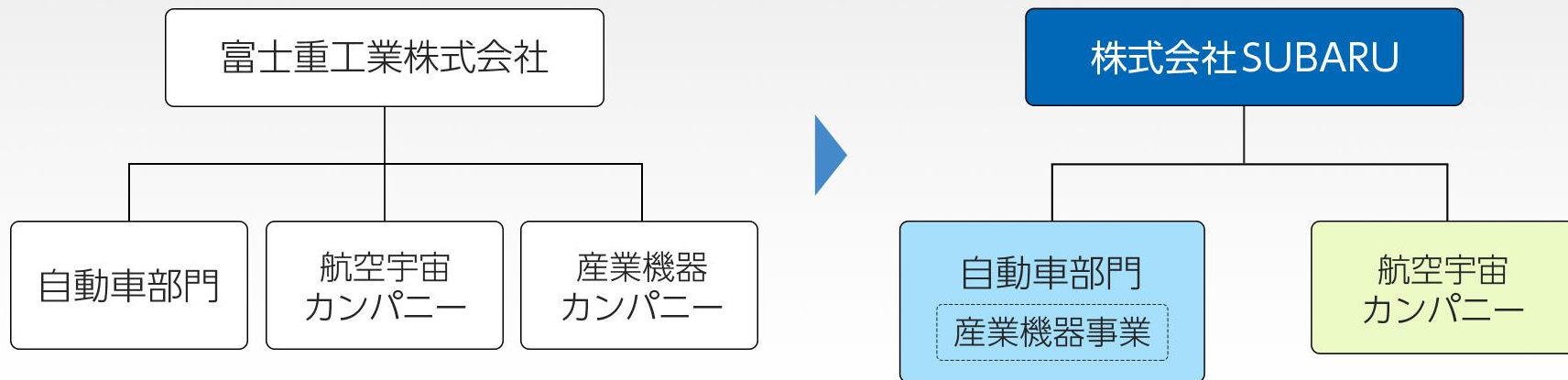
* 内燃機関の大幅効率改善と電動化の組み合わせにより
各地域の規制に対応

平成33(2021)年
電気自動車

② 自動車事業の開発リソース増強



「スバルブランドを磨く」取り組みを加速させるため、
経営資源の最適な配分の観点から産業機器カンパニーを自動車部門へ統合



* 組織改正は平成28(2016)年10月1日を予定

* 株式会社SUBARUへの変更は、本定時株主総会第2号議案での承認が条件。平成29(2017)年4月1日より実施予定

対処すべき課題

③ ブランドの更なる向上・浸透



富士重工業株式会社



株式会社SUBARU

英文：SUBARU CORPORATION

- * 本定時株主総会第2号議案での承認が条件
- * 平成29(2017)年4月1日より実施予定

- ① スバルらしさを追求した商品の拡充
- ② 自動車事業の開発リソース増強
- ③ ブランドの更なる向上・浸透
- ④ 生産能力の増強
- ⑤ 質の高い企業を目指す取り組み

今年度の業績見通し

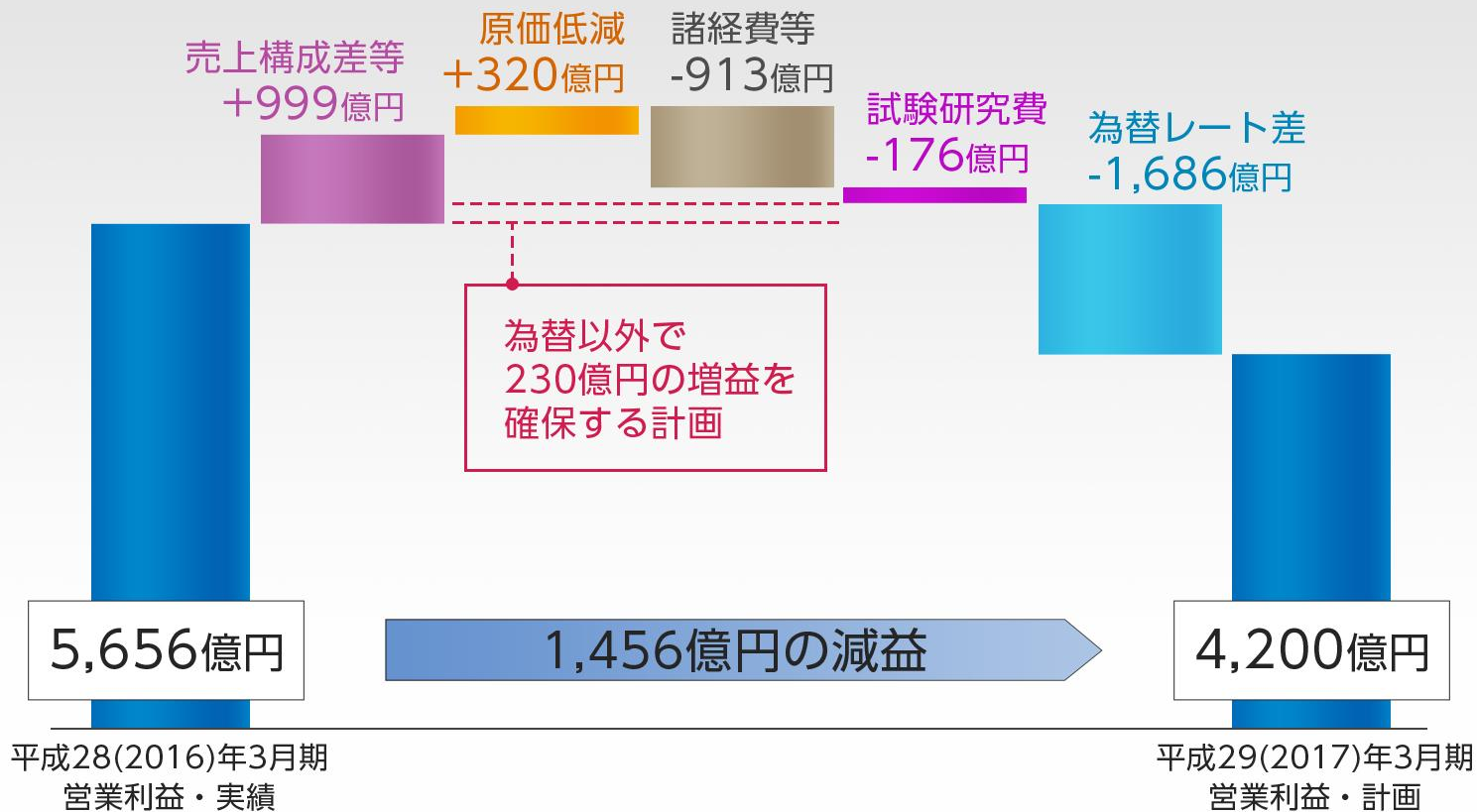
平成29(2017)年3月期 通期計画



	平成28(2016)年 3月期 実績	平成29(2017)年 3月期 計画	前年比
連結販売台数	95.8 万台	105.0 万台	+9.6%
売上高	32,323 億円	31,700 億円	-1.9%
営業利益	5,656 億円	4,200 億円	-25.7%
営業利益率	17.5 %	13.2 %	-4.2 pt
経常利益	5,770 億円	4,200 億円	-27.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,367 億円	2,930 億円	-32.9%
単独為替レート	¥121 /US\$	¥105 /US\$	-¥16 /US\$

今年度の業績見通し

平成29(2017)年3月期 通期計画 営業利益増減要因



今年度の業績見通し 株主還元(配当)



【1株当たり配当金】	第85期 平成28(2016)年 3月期 (a)	第86期 平成29(2017)年 3月期(予定) (b)	対前年 (b)-(a)
中間	72円	72円	±0円
期末	72円	72円	±0円
年間合計	144円	144円	±0円
配当性向(連結)	25.7%	38.4%	+12.7 pt
総還元性向(連結)	36.7%	38.4%	+1.7 pt

*第85期(2016年3月期)の期末および年間合計の1株当たり配当金額は、
本定時株主総会第1号議案が原案どおり承認可決されることを前提とした金額

*総還元性向：今回の自己株式取得(480億円)は平成28(2016)年3月期分として反映

今年度の業績見通し 株主還元（自己株式取得）



【取得の内容】

取得株式の種類	当社普通株式
取得株数	1,500万株（上限）
取得金額	480億円（上限）
取得期間	平成28(2016)年9月末日まで

* 取得する自己株式は全数消却予定



SUBARU